

通番	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
312	こてんたんきゅう 古典探究②	2	3	総合学科	系列選択E

履修条件、選択上の留意事項等
二年次 系列選択C古典探究①を履修していること。

科目の目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。
② 思考・判断・表現	古典の作品や文章を読み、その内容や形式などに関して興味をもったことや疑問に感じたことについて、調べて発表したり議論したりする活動。
③ 主体的に学習に取り組む態度	先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。
評価の方法	
学習内容に関心を持ち授業での自身の考えをまとめ発表する意欲、課題を見つけ解決に向けて取り組む態度等を継続的に延ばしていく姿勢を多面的に評価する。 課題の達成状況により、知識・技術の習得状況や思考・判断・表現力について評価する。	

学習計画						
月	単元 (項目)	題材(使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	古典の世界	宇治拾遺物語 『検非違使忠明のこと』	言語文化で学習した「忠明」を基に、古典で探求する姿勢と知識を学び直す。	○		
5	物語を読む	今昔物語集 『安倍晴明』	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めること	○		○
6	随筆を味わう	(以下の作品をペアリーディングで読む)	古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。	○		
		徒然草 『家居のつきづきしく』 『花は盛りに』 『今日はそのことをなさんと 思へど』	古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。		○	
		方丈記 『行く河の流れ』 『安元の大火』	【言語活動】先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。			○
			定期試験による評価	○	○	
7	歴史物語の文体	大鏡『競べ弓』	作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。		○	

	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
9	漢文の世界	故事・逸話より 『塞翁が馬』	訓読の基礎の復習	○		
			言語文化で学習した「禍福はあざなえる」を基に、漢文読解の基礎を学ぶ	○		
			古文と漢文の文体の違いを比較し、漢文を読む意味を考える		○	
10	歴史物語の世界	史記『四面皆楚歌す』	古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	○		
			文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること。		○	
11		比べ読み 芥川龍之介『英雄の器』	【言語活動】先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。		○	○
			定期試験による評価	○	○	
12	漢詩の世界を味わう	王維と李白	漢詩の形式と技法を学び、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めること。	○		
			関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。		○	
		【言語活動】漢詩と中国文化	漢文の名句・名言などを読み、社会生活に役立つ知識の文例を集め、それらの現代における意義や価値などについて随筆などにまとめる活動。		○	○
1	探求の世界へ	土佐日記『羽根』 『阿倍仲麻呂の歌』 李白『哭晁卿衡』	二つの国や文化にまたがる作品を比較する中で、古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること	○		
			古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。		○	
			【言語活動】古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること			○
2	韻文の世界	万葉集と漢詩（古今和歌集）	古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めること。	○		
			文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えること。		○	
		【言語活動】詩で表現する	古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めること		○	○
			定期試験による評価	○	○	

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
313	数学 I・A 演習	2	3	総合学科	系列選択E

履修条件、選択上の留意事項等

科目の目標
(1)数学I・Aの内容について基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、基礎を確実に定着し、入試基本レベルまでの問題が解ける力を身につける。 (2)問題演習をすることによって、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を育てる。また、グループワークを通じて他者の思考を理解し、自身の思考を深め、他者に的確に伝える能力を育成する。 (3)解答する場面において、説明を含む答案を作成できる能力を育成する。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	各単元における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につける。
② 思考・判断・表現	各単元において、事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決すると同時に 事象を数学的にとらえて論理的に表現する力をつける。
③ 主体的に学習に取り組む態度	各単元の考え方に関心を持ち、それらを事象の考察に活用しようとしてすることができる。
評価の方法	
記述の点検、確認、分析 行動の観察、確認、分析 定期考査及び授業における取り組み、課題への取り組み等を評価する。	

学習計画						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	数と式	整式 整式の乗法 乗法公式	数を実数まで拡張して理解し、無理数の四則演算ができる。乗法公式および因数分解の公式を理解し利用できる。不等式の解の意味や性質について理解し、解を求めることができる。	○	○	
5		因数分解(1)(2)(3)				
		実数 平方根の計算(1)(2)	グループワークおよび黒板にて自分の考えを説明できる。			○
		1次不等式(1)(2)				
	2次関数	集合とその要素	集合の概念や集合に関する基本的な事柄を理解することができる。命題と条件の概念を明らかにするとともに、命題と逆・裏・対偶等の真偽の関係を理解することができる。	○	○	
		いろいろな集合(1)(2)				
		命題 必要条件・十分条件	グループワークおよび黒板にて自分の考えを説明できる。			○
		逆・裏・対偶				
6	2次関数	関数 2次関数のグラフ(1)(2)	2次関数について基礎的な知識を身に付け、応用問題にも対応できる。	○	○	
		グラフの移動				
		2次関数の最大・最小(1)(2)(3)				
		2次関数の決定				
7	2次関数	2次関数と2次方程式(1)(2)	グループワークおよび黒板にて自分の考えを説明できる。			○
		2次関数と2次不等式(1)(2)(3)				

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
9 10	図形と計量	三角比(1)(2) 鈍角の三角比 三角比の相互関係(1)(2) 三角不等式 正弦定理 余弦定理(1)(2) 三角形の形状 図形の計量(1)(2)(3)	三角比の基礎的な知識を身に付け、更には正弦定理や余弦定理等を用いて辺の長さや角、面積等を求めることができる。また、応用問題にも対応できる。	○	○	
			グループワークおよび黒板にて自分の考えを説明できる。			○
11	データの分析	データの整理 分散と標準偏差	データを表に整理したり代表値や分散などの意味や求め方を理解できる	○	○	○
12	場合の数	集合の要素の個数 場合の数(1)(2)順列(1)(2) いろいろな順列(1)(2) 組合せ(1)(2)(3) その他の順列	集合について理解し、応用問題にも対応できる。	○	○	
			グループワークおよび黒板にて自分の考えを説明できる。			○
	確率	確率(1)(2)	確率の基本的な問題が解ける。	○		
1	整数の性質	約数と倍数(1)(2) 除法と剰余 ユークリッドの互除法 不定方程式 表記法	整数の性質を理解し、ユークリッドの互除法を利用できる。	○	○	
			グループワークおよび黒板にて自分の考えを説明できる。			○
2	図形の性質	三角形, 四角形, 円の性質他	基本的な図形の性質を理解している。グループワークおよび黒板にて自分の考えを説明できる。	○		○

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
229	数学C	2	2	総合学科・工業科	自由選択

履修条件、選択上の留意事項等

数学Ⅱを履修していること

科目の目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 大きさと向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	ベクトル，平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学的な表現の工夫について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
② 思考・判断・表現	大きさと向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
③ 主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価の方法

定期テスト、ワークシート、課題などの提出物への取組状況、授業への取組状況 など

学習計画

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	ベクトルとその演算	ベクトル	ベクトルの意味，相等などについて理解する。	○		○
5		ベクトルの演算	ベクトルの和，差，実数倍，平行，分解について理解し，それらを図示したり求めたりすることができる。また，多項式の演算法則と関連付けて，ベクトルの演算法則を考察することができる。	○		
		ベクトルの成分	ベクトルの成分表示について理解し，演算，分解，平行についての問題を成分表示を利用して解くことができる。		○	
		ベクトルの内積	ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解し，様々な場面に応用することができる。		○	○
6	ベクトルと平面図形	位置ベクトル	位置ベクトルについて理解し，点の位置や図形の性質について考察することができる。		○	
		ベクトルの図形への応用	線分の内分点・外分点を位置ベクトルで表す公式を，実際の図形に適用できる。	○		○
		図形のベクトルによる表示	ベクトル方程式について理解する。また，条件を満たす点の存在範囲などについて考察することができる。		○	
7		空間の点	間の座標について理解し，2点間の距離，座標平面に平行な平面の方程式を求めることができる。	○	○	
		空間のベクトル	空間におけるベクトルの意味や演算，内積などについて，平面の場合と関連付けながら理解する。	○		
		ベクトルの成分	ベクトルの成分表示について理解し，演算，分解，平行についての問題を成分表示を利用して解くことができる。		○	
		ベクトルの内積	ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解し，様々な場面に応用することができる。		○	○

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
9	10	ベクトルの図形への応用	位置ベクトルの定義や内分点などの位置ベクトルが平面上のベクトルの場合と同じであることを理解する。		○	○
		座標空間における図形	座標空間における2点間の距離や線分の内分点、外分点の座標、三角形の重心の座標が求められる。	○		
複素数平面		複素数平面と、複素数の実数倍、和、差などの図形的な意味を理解する。	○		○	
複素数の極形式		複素数の極形式、複素数の積、商の図形的な意味を理解する。	○			
ド・モアブルの定理		ド・モアブルの定理について理解する。また、複素数の累乗根について考察することができる。	○		○	
複素数と図形		複素数平面において、さまざまな図形を考察することができる。		○		
12	2次曲線	放物線	放物線の方程式とその概形などについて考察し、放物線の基本的な性質について理解する。	○		○
		楕円	楕円の方程式とその概形などについて考察し、楕円の基本的な性質について理解する。	○		○
		双曲線	双曲線の方程式とその概形などについて考察し、双曲線の基本的な性質について理解する。	○		○
		2次曲線の平行移動	曲線の平行移動について理解し、 x, y についての2次方程式が表す曲線について調べることができる。		○	
		2次曲線と直線	2次曲線と直線の位置関係について調べることができる。		○	
	媒介変数表示と極座標	曲線の媒介変数表示	曲線の媒介変数表示について理解し、媒介変数表示を用いて曲線を表現し処理することができる。	○		
2	極座標と極方程式	極座標による表し方やその意味、直交座標との関係について理解したり、極方程式が表す図形について調べたりすることができる。	○		○	
	コンピュータの利用	媒介変数表示された曲線や極方程式で表される曲線を、コンピュータを用いて描くことができる。		○	○	

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
315	化学基礎演習	2	3	総合学科	系列選択E

履修条件、選択上の留意事項等
3年次「化学演習」と同時履修不可。

科目の目標
物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察・実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)日常生活や社会の関連などから物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な実験・観察に関する技能を身につける。 (2)実験・観察を行い、科学的に探究する力を養う。 (3)物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	原理・法則を理解する。実験の基本操作を身につけている。
② 思考・判断・表現	科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 観察・実験などから科学的に探究する力を身につけている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	日常生活や社会との関連を図りながら化学現象について関心を持っている。
評価の方法	
授業ノートの提出・確認、行動の観察、課題の提出(取り組み状況と提出状況)、小テスト、定期テスト、実験の報告書提出 など	

学習計画						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	化学と人間生活	化学とは	日常生活との関連を図りながら、化学や化学現象について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○
5	物質の構成	物質の分類	身の回りの物質がどのような状態で存在しているか、元素や物質の種類をもとに判断することができる		○	
		物質の状態と構成	三態における粒子のふるまいと、その粒子を構成する陽子・電子・中性子について理解している。	○		
6		元素の特徴	元素の性質とその周期性について理解している。	○		
			元素の特徴の周期性から周期表ができ、元素の分類がされていことを理解している。		○	
7		化学結合	化学結合と結晶について、種類と特徴について理解し、身の回りの物質に照らし合わせて考えることができる。		○	
			日常生活との関連を図りながら、化学や化学現象について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○
9	物質の変化	原子量・分子量・式量	相対質量を理解し、原子量・分子量・式量から物質量を求めることができる。	○		
		物質量	物質量・粒子の数・質量・気体の体積の関係から、目的に応じた換算をすることができる。		○	
10		濃度	質量パーセント濃度・モル濃度などの、目的に応じた溶液を調製することができる。	○		
		化学反応式	反応物と生成物から化学反応式をつくり、その式から目的物質の質量を考えることができる。		○	
11		酸・塩基	酸・塩基の特徴とその関係を理解している。		○	
			中和滴定の結果から、濃度のわからない酸・塩基の水溶液の濃度を求めることができる。	○		
12		酸化・還元	化学反応の前後から、どの物質が酸化・還元されたかを判断することができる。		○	
			日常生活との関連を図りながら、化学や化学現象について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○
1	化学が拓く世界		日常生活との関連を図りながら、化学や化学現象について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
316	声楽	2	3	総合学科	系列選択 E

履修条件、選択上の留意事項等

選択クラス授業

科目の目標

声楽に関する学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に歌唱表現するために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもつことができるようにする。
- (3) 音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表現している。
② 思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したものと感受したことの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

評価の方法

実技やレポートを中心に、授業態度や課題で総合的に判断して評価する。

学習計画

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5	基本発声1	コンコーネ	基礎となる発声法や姿勢が正しくできる。	○		
	基本発声2	トスティ練習曲	音楽表現に必要な要素（音程・音色・テンポなど）を表現に活かす方法を身につける。		○	
	イタリア語歌唱	イタリア古典歌曲	イタリア語を正しく発音し歌詞の内容を考え歌唱表現できる		○	
6 7	基本発声1	コンコーネ	基礎となる発声法や姿勢が正しくできる。	○		
	基本発声2	トスティ練習曲	音楽表現に必要な要素（音程・音色・テンポなど）を表現に活かす方法を身につける。		○	
	イタリア語歌唱	ベッリーニ歌曲	イタリア語を正しく発音し歌詞の内容を考え歌唱表現できる		○	
9 10	基本発声1	コンコーネ	基礎となる発声法や姿勢が正しくできる。	○		
	基本発声2	トスティ練習曲	音楽表現に必要な要素（音程・音色・テンポなど）を表現に活かす方法を身につける。		○	
	ドイツ語歌唱	シューベルト歌曲	ドイツ語を正しく発音し歌詞の内容を考え歌唱表現できる		○	
11 12	基本発声1	コンコーネ	基礎となる発声法や姿勢が正しくできる。	○		
	基本発声2	トスティ練習曲	音楽表現に必要な要素（音程・音色・テンポなど）を表現に活かす方法を身につける。		○	
	ドイツ語歌唱	シューマン歌曲	ドイツ語を正しく発音し歌詞の内容を考え歌唱表現できる		○	
1 2	基本発声1	コンコーネ	基礎となる発声法や姿勢が正しくできる。	○		
	基本発声2	トスティ練習曲	音楽表現に必要な要素（音程・音色・テンポなど）を表現に活かす方法を身につける。		○	
	ミュージカル	サウンドオブミュージック	ミュージカルの構成や表現を理解し、舞台演技を含め演じることができる。			○

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
317	原価計算	2	3	総合学科	選択
履修条件、選択上の留意事項等					
2年次簿記を履修していること。企業活動に関する原価及び原価計算について興味関心を持っていること。					
科目の目標					
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、原価情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)原価計算，原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。 (2)原価計算，原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見だし，ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。 (3)企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び，適切な原価情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
評価の観点とその趣旨					
① 知識・技能	原価計算，原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解している。				
② 思考・判断・表現	原価計算，原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法を養う。				
③ 主体的に学習に取り組む態度	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学ぼうとする。				
評価の方法					
授業への取り組み状況、定期テスト、小テスト、その他提出物等への取組状況等					
学習計画					
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点 ① ② ③	
4	原価と原価計算	原価と原価計算	原価計算の意味 工業簿記と原価計算の関係 原価計算の種類 原価計算の性格とその分類 原価要素の集計のしかたと原価計算表の役割	○	○
5	原価の概念	原価計算のあらまし	原価要素の性格とその分類 原価要素を集計する過程で原価計算表の役割 原価計算の目的	○	○
6	原価計算の特色と仕組み	工業簿記 製造業における簿記	工業簿記における勘定記入の特徴 製造直接費と製造間接費の区別の必要 製造活動に関わる勘定の特性	○	○
	原価の費目別計算 材料費の計算	材料費の計算	材料費の分類とその内容 材料の仕入，消費に関わる処理 予定価格により消費高を計算することの意義	○	○
7	労務費の計算 経費の計算	労務費の計算 経費の計算	労務費の分類とその内容 労務費の計算方法と記帳方法 賃金支払高の計算期間と賃金消費高の計算期間	○	○
8					○
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点 ① ② ③	
9	原価の部門別計算と製品別計算 個別原価計算と製造間接費の計算	原価の部門別計算と製品別計算 個別原価計算 原価計算表の記入方法 製造間接費の配賦 予定配賦率による配賦 製造間接費の差異分析	原価元帳と仕掛品勘定 個別原価計算のしくみ 仕損品，作業くずの処理 原価計算表の作成 製造間接費の配賦方法 予定配賦による記帳 部門別個別原価計算	○	○
10	部門別個別原価計算	部門別個別原価計算 総合原価計算 部門別個別原価計算の手続きの全体の流れ	部門別個別原価計算の必要性 部門費配分表，部門費振替表 部門別個別原価計算の手続きの流れ	○	○
11	総合原価計算	総合原価計算 総合原価計算の種類	平均法と先入先出法による月末仕掛品原価の計算 等級別総合原価計算のしくみ 組別総合原価計算のしくみ	○	○
12	内部会計 製品の完成と販売	工程別総合原価計算 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理	工程別総合原価計算の意味と目的，手続き 工程別総合原価計算の手続き 減損の意味と，それが発生した場合の処理方法に 副産物，作業くず，仕損品の意味と記帳方法	○	○
1	工場会計の独立 製造業の決算 標準原価計算 標準原価計算の目的と手続 原価差異の原因別分析	製品の完成と販売 決算と本社・工場間の取引 直接原価計算の基礎	製品の完成と販売に伴う手続きと記帳方法 販売費及び一般管理費の記帳方法 財務諸表の特色の理解，製造原価報告書の作成 工場会計の独立の理解 標準原価計算の意義と特色，手続き 標準原価計算により完成品原価や月末仕掛品原価 パーシャルプラン，シングルプランによる記帳	○	○
2	直接原価計算 直接原価計算の目的と財務諸表の作成 短期利益計画への活用	CVP分析や損益分岐図表による売上高・原価・利益の関係 高低点法を用いた原価予測の方法	直接原価計算の意義と特色，手続き CVP分析や損益分岐図表により，売上高・原価・利益の関係 損益分岐点比率と安全余裕率	○	○